

春の沢集中 鶏冠谷右俣

平成20年6月9日(晴れ時々曇り)

山本、熊崎、平本(記)

橋本駅21:00に山本さんと待ち合わせ。23:00頃三富道の駅に到着。軽く入山祝いをして早めに就寝。翌朝5:00起床。熊崎君も深夜に到着して、無事合流。西沢渓谷入り口のPに移動して身支度。6時過ぎには出発。東沢に入ると、水量がやや多いものの、心配していた程ではない。テントを張っていたり、徒歩に窮してうろうろしていたり、妙に人が多い。

鶏冠谷(6:15)に入ると、日当たりが悪く、岩、砂利などの堆積が多い感じ。右岸からの崩落が多いようだ。初めの大きな滝は巻く。

水温は低く水中に入るのは冷たくて辛い。沢では水流に近い方が岩など落ち着いていて安全だ。逆の滝手前で沢は狭まり、屈曲して本格的な溪相。左岸から倒木などを利用して越え、左から奥の飯盛沢を迎えると逆くの字の滝場だ。この滝は見た目よりも難しい。1回目はすんなり登れたが、2回目は転けた。3回目の今回は水流が多いため、右壁に水流よりも高めに足場を求めて意外とすんなり登れた。

二股までの間にも小滝やナメ滝があるはずだが、崩壊、倒木の影響が大きい。二股(8:00)から出合いの大きな滝は中間尾根を素直に登って、小さく楽に巻くことが出来た。ガイドブックにあるような、左俣を上がって、トラバースなどしないほうがいい。右俣へ降り立つと両岸が狭まった中に連ばく帯が見えるが、倒木がうるさい。暑い時期ならドボンしたりしながら楽しめる所だが、気温水温が低いのと、沢の荒れ具合で、今一気分が乗らない。少し長いガレ沢部分とやはり崩落の影響の大きい綺麗なナメ滝部分を過ぎると、奥に大滝がみえてくる。(9:45)

ここから詰めにはいる訳だが、前回はシャクナゲの藪漕ぎで非常に苦労した。それはやはりガイドブック頼りにすぐに右の尾根方に上がってしまったからで、今回は山本さんの見立てに従い、沢身を忠実に詰め上がる。いい加減楽なアルバイトを続けると、シャクナゲが現れたかと思った矢先に詰めは終わってしまった。(10:30)

戸渡尾根に上がると、苦しめられるはずのシャクナゲには淡いピンクの花が付いており、目を楽ませしてくれる。

登山道の日陰には雪が残っていて、涼しい風を運んでくれる。

甲武信小屋(12:00)の前に付くと釜の沢パーティと真ノ沢パーティ、尾根を一人登って来られた田中さんが待っていてくれた。程なく、大荒川谷パーティが到着し、全員が揃い、集中は見事に上手くいった。

暫し甲武信小屋の前で和やかに過ごしたあと全員で記念撮影し、大荒川谷パーティは毛木平へ下山。残ったメンバーは皆で戸渡尾根を下山した。(16:00)

比較的手頃なエリアのためか、今回の春の集中は上手く行きました。まだ、この季節では沢の水は冷たく、泳いだりするのは無理に感じました。

今回、熊崎君、山本さんらは石一つ落とさずに登られたので、さすがに力量の高さを感じましたが、最近は沢で見かける危険の一つとして、(含同パーティ内)人為的落石によるヒヤリが多いと感じています。

ガレ場、高巻きなどでの立ち位置やザイル操作に特に注意を払う必要があると思います。

もう少し季節が進んで山の雪が消える頃には沢登りの最盛期を迎えます。今年も怪我、事故なく沢を楽しんで行きたいです。